

2013年8月期 第3四半期業績 および通期見通し

岡崎 健

株式会社ファーストリテイリング
グループ上席執行役員 CFO

1

CFOの岡崎です。
私から、2013年8月期第3四半期の業績、および
通期の業績見通しについてご説明いたします。

I. 第3四半期決算概要	P3	～	P18
II. 2013年8月期 通期業績予想	P19	～	P20
III. ご参考資料	P21	～	P24

【資料文中のグループ事業の表示について】

各グループ事業の構成は、以下のとおりです。

(2013年8月期)

国内ユニクロ事業： 株式会社ユニクロの数値が表示されています。

海外ユニクロ事業： 海外で展開するユニクロ事業が含まれています。

グローバルブランド事業： セオリー事業、コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業、
ジーユー事業、J Brand事業が含まれています。

(2012年8月期)

国内ユニクロ事業： 株式会社ユニクロの数値が表示されています。

海外ユニクロ事業： 海外で展開するユニクロ事業が含まれています。

グローバルブランド事業： セオリー事業、コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業、
ジーユー事業が含まれています。

【将来予測に関するご注意】

本資料に掲載されている業績予想、計画、目標数値などのうち、歴史的事実でないものは、作成時点で入手可能な情報に基づき作成した将来情報です。実際の業績は、経済環境、市場の需要・価格競争に対する対応、為替などの変動により、この業績予想、計画、目標数値と大きく異なる場合があります。

1Q～3Q 売上高 : 8,858億円 (前年同期比 +19.1%)
 9ヶ月累計 営業利益 : 1,240億円 (前年同期比 +4.0%)
 経常利益 : 1,420億円 (前年同期比 +19.6%)
 純利益 : 884億円 (前年同期比 +21.9%)

	1Q～3Q (2012/9～2013/5)			3Q (2013/3～2013/5)			単位: 億円
	9ヶ月累計 実績	前年 実績	前年 同期比	3ヶ月 実績	前年 実績	前年 同期比	
売上高 (売上比)	8,858 100.0%	7,435 100.0%	+19.1%	2,709 100.0%	2,180 100.0%	+24.3%	
売上総利益 (売上比)	4,439 50.1%	3,839 51.6%	+15.6% ▲1.5p	1,399 51.7%	1,154 53.0%	+21.2% ▲1.3p	
販管費 (売上比)	3,199 36.1%	2,646 35.6%	+20.9% +0.5p	1,126 41.6%	878 40.3%	+28.1% +1.3p	
営業利益 (売上比)	1,240 14.0%	1,193 16.0%	+4.0% ▲2.0p	273 10.1%	275 12.6%	▲0.7% ▲2.5p	
経常利益 (売上比)	1,420 16.0%	1,188 16.0%	+19.6% +0.0p	342 12.6%	252 11.6%	+35.7% +1.0p	
純利益 (売上比)	884 10.0%	725 9.8%	+21.9% +0.2p	229 8.5%	147 6.8%	+56.0% +1.7p	

まず第3四半期9ヶ月累計の連結業績ですが、
 売上高は8,858億円、前年同期比19.1%増、
 営業利益は1,240億円、同4.0%増、
 経常利益は1,420億円、同19.6%増、
 純利益は884億円、同21.9%増となりました。

次のスライドで要因をご説明いたします。

【連結】第3四半期(累計):増収増益の要因

売上高 8,858億円(前年同期比+19.1%、1,422億円増収)

- ・ 海外ユニクロ事業 +687億円
- ・ 国内ユニクロ事業 +383億円
- ・ グローバルブランド事業+349億円

売上高総利益率50.1%(前年同期比▲1.5p)

- ・ 国内ユニクロ事業 ▲1.4p

売上高販管費比率36.1%(前年同期比+0.5p)

- ・ 国内ユニクロ事業で経費率上昇

営業利益 1,240億円、前年同期比4.0%増

経常利益 1,420億円、前年同期比19.6%増

- ・ 為替差益の増加により、営業外収支が前年同期比で185億円改善

純利益 884億円、前年同期比21.9%増

4

まず売上高ですが、8,858億円と前年同期比19.1%増、1,422億円の増収となりました。その内訳ですが、海外ユニクロ事業が687億円の増収、国内ユニクロ事業が383億円の増収、グローバルブランド事業が349億円の増収となっております。

売上高総利益率は50.1%と、前年同期比1.5ポイント低下いたしました。粗利益率低下の主な要因としては、国内ユニクロ事業の粗利益率が同1.4ポイント低下したことがあげられます。

売上高販管費比率は36.1%と、前年同期比0.5ポイント増加しております。これは、国内ユニクロ事業で経費率が上昇したことが要因です。

これらの結果、営業利益は1,240億円、前年同期比4.0%増の増益でした。

経常利益については1,420億円、前年同期比19.6%増と大幅な増益となっております。これは、5月末の為替レートが1ドル約101円と前期比で大幅な円安となったため、為替差益178億円が計上されたことにより、営業外収支が前年同期比185億円改善したことによりです。

純利益は884億円、前年同期比21.9%増となりました。

第3四半期グループ事業別実績

単位：億円

		1Q～3Q (2012/9～2013/5)			3Q (2013/3～2013/5)		
		9ヶ月累計 実績	前年 実績	前年 同期比	3ヶ月 実績	前年 実績	前年 同期比
国内ユニクロ事業	売上高	5,416	5,032	+7.6%	1,544	1,386	+11.3%
	営業損益	883	927	▲4.7%	193	204	▲5.4%
	(売上比)	16.3%	18.4%	▲2.1p	12.5%	14.7%	▲2.2p
海外ユニクロ事業	売上高	1,913	1,225	+56.1%	606	377	+60.7%
	営業損益	196	136	+43.8%	36	21	+64.3%
	(売上比)	10.3%	11.1%	▲0.8p	5.9%	5.8%	+0.1p
グローバルブランド事業	売上高	1,508	1,159	+30.1%	551	410	+34.3%
	営業損益	134	134	+0.2%	48	55	▲11.7%
	(売上比)	8.9%	11.6%	▲2.7p	8.8%	13.4%	▲4.6p

注：連結業績には上記のほか、ファーストリテイリングの業績、のれん償却費が含まれております。

グループ事業別の業績は、こちらのスライドの通りです。

第3四半期累計では国内ユニクロ事業の売上高は5,416億円、営業利益は883億円、海外ユニクロ事業の売上高は1,913億円、営業利益は196億円、グローバルブランド事業の売上高は1,508億円、営業利益は134億円となっております。

第3四半期3ヶ月間では、国内ユニクロ事業とグローバルブランド事業は若干の減益となりましたが、海外ユニクロ事業では、増収増益を達成することができました。

【国内ユニクロ事業】第3四半期実績

**3Q累計
(9~5月) 増収減益**

4月の直近予想比: 売上高 ▲30億円下回る
営業利益 ▲30億円下回る

単位: 億円

	1Q~3Q (2012/9~2013/5)			3Q (2013/3~2013/5)		
	9ヶ月累計 実績	前年 実績	前年 同期比	3ヶ月 実績	前年 実績	前年 同期比
売上高 (売上比)	5,416 100.0%	5,032 100.0%	+7.6%	1,544 100.0%	1,386 100.0%	+11.3%
売上総利益 (売上比)	2,561 47.3%	2,449 48.7%	+4.6% ▲1.4p	752 48.7%	691 49.9%	+8.8% ▲1.2p
販管費 (売上比)	1,678 31.0%	1,522 30.3%	+10.2% +0.7p	558 36.2%	487 35.1%	+14.7% +1.1p
営業利益 (売上比)	883 16.3%	927 18.4%	▲4.7% ▲2.1p	193 12.5%	204 14.7%	▲5.4% ▲2.2p

6

ここからは各事業についてご説明いたします。

まず国内ユニクロ事業ですが、第3四半期9ヶ月間累計の売上高は、前年同期比7.6%の増収、営業利益は同4.7%の減益となりました。

この第3四半期3ヶ月間の業績としては、4月に発表いたしました直近予想に比べて、売上高で約30億円、営業利益で約30億円下回る結果となっております。

**3Q
(3~5月) 売上高 1,544億円 (前年同期比+11.3%)**

既存店売上高 前年比+9.3%(客数 +16.0%、客単価▲5.8%)

- ・TVCMやチラシ広告など販促活動を積極的に行った結果、客数が大幅増
- ・気温が高く推移したことで、春物、夏物商品の販売が好調
特にウルトラストレッチジーンズ、レギンスパンツ、エアリズム、ステテコ、リラコが好調
- ・客単価減少:一品単価の低い商品の販売が好調

直営既存店 前年比	2013年8月期					
	上期累計	3月	4月	5月	3Q	6月
売上高	+3.6%	+23.1%	▲3.0%	+10.9%	+9.3%	+20.5%
客数	+6.3%	+30.0%	+3.7%	+17.0%	+16.0%	+26.4%
客単価	▲2.5%	▲5.4%	▲6.5%	▲5.2%	▲5.8%	▲4.6%

ユニクロ直営店 2013年5月末 833店舗(FC店19店舗を除く)

- ・前年同期末比+5店舗

7

まず、国内ユニクロ事業の売上高について、詳細をご説明いたします。
第3四半期3ヶ月間の売上高は1,544億円と、前年同期比11.3%の増収
でした。これは主に、既存店売上高が9.3%増となったことによります。

既存店売上高が増収となったのは、TVCMやチラシ広告など、販促活動を
積極的に行った結果、多くのお客様にご来店いただき、客数が16.0%増となった
こと、3月から5月までの3ヶ月間の気温が全般的に高く推移したことにより、
春物および夏物商品の販売が好調に推移したためです。

特に好調だった商品は、ウルトラストレッチジーンズ、レギンスパンツ、
エアリズム、ステテコ、リラコなどです。

一方で、客単価は5.8%減少いたしました。これは、一品単価の低い
レギンスパンツ、エアリズムなどの商品の販売が好調だったためです。

なお、2013年5月末における直営店舗数は833店舗と、前年同期末比で
5店舗の増加になっております。

3Q 売上高総利益率 48.7% (前年同期比▲1.2p)
(3~5月) 4月の直近予想比 0.9ポイント下回る

4月の直近予想比で下回った理由:

- ・チラシ広告などの販促活動の強化
- ・お客様の価格志向の強さが続いた影響

第3四半期3ヶ月間の売上高総利益率は48.7%と、前年同期比1.2ポイント低下いたしました。これは4月に発表した直近予想に比べて0.9ポイント下回っております。

売上高総利益率が4月に発表した直近予想に対して下回った要因は、チラシ広告などの販促活動を強化したこと、お客様の価格志向の強さが続いた影響によるものです。

**3Q
(3~5月) 売上高販管費比率 36.2% (前年同期比+1.1p)**

対売上高比率は1.1ポイント上昇

広告宣伝費	前年同期比	+0.7 ポイント
人件費	同	±0.0 ポイント
賃借料	同	±0.0 ポイント
減価償却費	同	▲0.2 ポイント
その他経費	同	+0.5 ポイント

第3四半期3ヶ月間の売上高販管費比率は36.2%と、前年同期比1.1ポイント上昇しておりますが、これは、金額として、ほぼ計画通りとなっております。

対売上高比率で、広告宣伝費が0.7ポイント上昇しております。テレビCMやチラシ広告を増やす計画をしていたことから、対売上高比率が上がっております。

対売上高比率で、その他経費比率も0.5ポイント上昇しておりますが、これは、店舗什器の高層化に伴う、新しい什器等の購入費用が発生した影響によります。

3Q (3~5月) アジアは好調維持、米国は計画下回る

アジアでは好調な増収増益が続く

中国、台湾、韓国を中心に大量出店が継続

5月末410店舗(前年同期末比135店舗増)

米国の赤字幅は前年並み

単位:億円

		1Q~3Q (2012/9~2013/5)			3Q (2013/3~2013/5)		
		9ヶ月累計実績	前年実績	前年同期比	3ヶ月実績	前年実績	前年同期比
海外ユニクロ事業	売上高	1,913	1,225	+56.1%	606	377	+60.7%
	営業損益 (売上比)	196 10.3%	136 11.1%	+43.8% ▲0.8p	36 5.9%	21 5.8%	+64.3% +0.1p

10

次に、海外ユニクロ事業ですが、第3四半期3ヶ月間での売上高は606億円、前年同期比60.7%増、営業利益は36億円、同64.3%増と大幅な増収増益となりました。

アジアを中心に、好調な既存店売上高の伸びが続いていること、中国、台湾、韓国を中心として大量出店が継続していることが、大幅な増収増益の要因です。

海外ユニクロ事業全体では、5月末の店舗数は前年同期末比135店舗増の410店舗まで拡大いたしました。

米国の第3四半期3ヶ月間は、計画を下回り、赤字幅が前年並みに留まる結果でした。

**3Q
(3~5月) 各エリアの業績トレンド**

- ・グレートチャイナ(中国、香港、台湾): 計画通りの増収増益
既存店売上高の増収続く、店舗数は29店舗増
- ・韓国: 計画に対して若干の下ブレ
4月は気温低下で売上が苦戦、3Qの既存店売上高は横ばい
- ・東南アジア(シンガポール・マレーシア・タイ・フィリピン):
計画を上回る増収増益
好調な売上トレンドが続く、9店舗を出店、32店舗まで拡大
6月22日(土)にインドネシアに初進出
- ・米国: 赤字額はほぼ前年と同水準に留まる
天候不順により春物商品の動きが鈍くNY3店舗の収益未達
- ・欧州(英国、フランス、ロシア): 計画通り
ほぼ前年並みの営業利益

11

次に、各エリアの第3四半期の業績トレンドですが、グレートチャイナでは、既存店売上高の増収が続き、店舗数も29店舗増え、計画通りの増収増益を達成いたしました。

韓国では、4月に気温が低下したことにより売上が苦戦し、3ヶ月間の既存店売上高は前年比横ばいでした。店舗数は、計画通り11店舗を出店いたしました。業績は計画に対して、若干の下ブレとなっております。

シンガポール、マレーシア、タイ、フィリピンといった東南アジア地区では、好調な売上トレンドが続き、計画を上回る業績となっております。店舗数も、この3ヶ月間で9店舗を出店、5月末には32店舗まで拡大しております。なお、6月22日には、インドネシアに初出店し、好調なスタートを切っております。

米国では、下期に赤字幅が縮小する計画でしたが、第3四半期3ヶ月間の収益は、前年とほぼ同水準に留まる結果となっております。これは、天候不順により、春物商品の動きが鈍く、ニューヨーク3店舗の収益改善が計画を下回ったことによります。なお、昨年秋に出店したニュージャージーのガーデン・ステート・プラザ店、サンフランシスコ店と、この春に出店したショッピングモールの2店舗の売上は順調に推移しております。

英国、フランス、ロシアといった欧州ユニクロでは、計画通り、ほぼ前年並みの営業利益の水準となっております。第3四半期の既存店売上高はプラスに転じるなど、売上は回復基調にあります。通期では計画通り、若干の赤字となる見込みです。



こちらのスライドは、6月22日に、インドネシアの1号店としてジャカルタにオープンした店舗の様子です。
売場面積は約810坪の東南アジア最大級の規模を誇り、好調なスタートを切っております。

2013年秋、米国に10店舗を出店

2013年、東海岸に6店舗、西海岸に4店舗、合計10店舗を出店予定



米国市場で、東海岸、西海岸それぞれに、
ドミナントを形成

本日、リリースいたしました米国での出店ですが、
この秋に東海岸に6店舗、西海岸に4店舗、合計10店舗を出店し、
それぞれのエリアでドミナントを形成していく予定です。

米国では、2014年春以降もさらに出店を進めていく計画です。



グローバルマーケティングの強化の一環として、世界のアスリートにユニクロの服とファーストリテイリングの企業コンセプトを伝える伝導師として活躍していただく。

アダム・スコット選手が4月に「第77回 マスターズ・トーナメント」で初優勝！



国枝慎吾選手が「ウィンブルドン選手権2013」において、ダブルスで優勝！

ノバク・ジョコビッチ選手は「ウィンブルドン選手権2013」で惜しくも準優勝



14

海外ユニクロ事業の本格化にともない、グローバルマーケティングがさらに重要になってきております。

世界で活躍するアスリートに、ユニクロの服とファーストリテイリングの企業コンセプトを伝える伝導師として活躍して頂いております。

4月には、アダム・スコット選手が、ゴルフのメジャートーナメントのマスターズで優勝を果しました。

また、先週の英国でのテニス、ウィンブルドン選手権においては、車椅子のダブルスで国枝慎吾選手が2度目の優勝を果しました。

ノバク・ジョコビッチ選手は、惜しくも今回のウィンブルドンでは、準優勝でしたが、ユニクロのエアリズム、ポロシャツを着て活躍していただきました。

このように世界で活躍するアスリートを通して、ユニクロやファーストリテイリングのブランドを知って頂くという、グローバルマーケティングを引き続き強化していきたいと思っております。



【グローバルブランド事業】第3四半期(3ヶ月)実績

3Q
(3~5月) ジュー、セオリーは好調

ジュー事業：既存店売上高は増収、計画通りの増収増益

セオリー事業：3Qは増益に転じる

コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業：

欧州の非常に寒い春により、3Qの業績は計画未達、減益

J Brand事業：計画を下回る

単位
：億円

		1Q~3Q (2012/9~2013/5)			3Q (2013/3~2013/5)		
		9ヶ月累計 実績	前年 実績	前年 同期比	3ヶ月 実績	前年 実績	前年 同期比
グローバルブランド事業	売上高	1,508	1,159	+30.1%	551	410	+34.3%
	営業損益 (売上比)	134 8.9%	134 11.6%	+0.2% ▲2.7p	48 8.8%	55 13.4%	▲11.7% ▲4.6p

15

グローバルブランド事業の第3四半期3ヶ月間の売上高は551億円、前年同期比34.3%増、営業利益は48億円、11.7%減と、増収減益でした。ジュー、セオリー事業は好調を維持いたしました。また、コントワー・デ・コトニエ、プリンセス タム・タム、J Brand事業が計画を下回ったことから、グローバルブランド事業全体では、計画を若干下回る結果となっております。

ジュー事業は、既存店売上高の増収が続き、計画通りの増収増益を達成しております。

セオリー事業につきましては、上期はマーケティング経費の一時的な増加により、減益でしたが、第3四半期3ヶ月間では、計画通り、増益に転じております。

コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業は、欧州が非常に寒い春だったため、第3四半期の売上高は計画を下回り、営業利益も計画未達、減益でした。

J Brand事業は売上高、利益ともに計画を下回る結果となっております。

単位：億円

	2012年5月末	2012年8月末	2013年5月末	前年同期比
総資産	5,897	5,951	9,109	+3,212
流動資産	4,135	4,245	6,646	+2,511
固定資産	1,762	1,705	2,463	+701
負債	1,989	2,002	2,971	+982
純資産	3,908	3,948	6,138	+2,229

16

次に2013年5月末のバランスシートの説明をいたします。

総資産は9,109億円と、前年同期比3,212億円増加いたしました。

これは、流動資産が同2,511億円増加したこと、および固定資産が同701億円増加したためです。

詳細については、次のスライドでご説明いたします。

【連結】B/Sのポイント(前年同期末比)

流動資産の増加 +2,511億円 (4,135億円 ⇒ 6,646億円)

・現金・預金及び有価証券の増加 +436億円 (2,706億円 ⇒ 3,142億円)

・たな卸資産の増加 +394億円 (796億円⇒1,191億円)

【国内ユニクロ事業】+113億円

店舗什器高層化の影響など +101億円

【海外ユニクロ事業】+201億円 店舗数が前年同期末比で135店舗増加

【グローバルブランド事業】+80億円

ジーユー事業、セオリー事業の事業拡大による在庫増、J Brandの在庫を連結

・為替予約勘定:負債から資産 +1,946億円 (負債301億円⇒資産 1,644億円)

【国内ユニクロ事業】 5月末レートが保有する為替予約の平均レートより円安
ヘッジ会計適用のため損益への影響なし

固定資産の増加 +701億円 (1,762億円 ⇒ 2,463億円)

・有形固定資産の増加 +243億円 (696億円 ⇒ 939億円)

【海外ユニクロ事業】 店舗数が前年同期末比135店舗増加

・無形固定資産の増加 +426億円 (392億円 ⇒ 818億円)

【グローバルブランド事業】 J Brandを連結

17

まず、流動資産が2,511億円増加した要因をご説明いたします。

現金・預金及び有価証券の合計額は3,142億円と、前年同期末比で436億円増加いたしました。これは、国内ユニクロ事業をはじめとする各事業の営業キャッシュ・フローが増加したことによります。

期末のたな卸資産は1,191億円と、同394億円増加しております。

国内ユニクロ事業の5月末の在庫は同113億円増加いたしました。

店舗の什器を高層化し、店頭在庫を増やした影響などにより、在庫が101億円増加しております。

海外ユニクロ事業の在庫は、前年同期末比で201億円増加しております。

これは、5月末の店舗数が同135店舗増えたことによります。

グローバルブランド事業の在庫は、同80億円増加しております。

これは、ジーユー事業、セオリー事業の事業拡大に伴って在庫が増加したこと、J Brand事業の在庫を連結したことによります。

為替予約勘定は、負債側で前年同期末比301億円減少し、流動資産側で1,644億円と増加しております。国内ユニクロ事業では、長期的なヘッジ方針に従って為替予約を行っております。5月末の為替が、保有する為替予約の平均レートより円安となったことより、為替予約勘定が大幅に増加しております。なお、ヘッジ会計を適用しているため損益への影響はございません。

固定資産は、前年同期末比で701億円増加しております。これは、海外ユニクロ事業で、店舗数が同135店舗増加したことにより、有形固定資産が同243億円増加したこと、J Brandを連結したことなどにより、無形固定資産が同426億円増加したことによります。

【連結】第3四半期(累計) キャッシュ・フロー

	2012年8月期 第3四半期累計	2013年8月期 第3四半期累計	コメント	単位: 億円
営業活動によるキャッシュ・フロー	+1,266	+1,008		
税金等調整前純利益	+1,176	+1,405	ユニクロ事業をはじめとする各事業の利益貢献	
減価償却費、のれん償却額	+182	+203		
運転資金の増減額	+40	▲134	売上債権、たな卸資産、仕入債務の増減の合計額	
法人税等の支払い・還付	▲213	▲409		
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲301	▲535		
有形固定資産の取得による支出	▲208	▲196	出店拡大に伴う投資	
無形固定資産の取得による支出	▲64	▲35	システム投資など	
連結範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	▲267	J Brand買収に伴う支出	
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲283	▲222		
長期借入れによる収入	-	+156	J Brand買収に伴う借入れ	
配当金の支払額	▲221	▲283	期末配当金1株当たり130円、中間配当金140円の支払	
現金及び現金同等物の増加額	+685	+481		
現金及び現金同等物の期首残高	2,021	2,660		
現金及び現金同等物の期末残高	2,706	3,141		

次に、第3四半期累計のキャッシュ・フローについてご説明いたします。

営業活動によるキャッシュ・フローは、ユニクロ事業をはじめとする各事業の利益貢献により1,008億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは535億円の支出となりました。支出の主な内訳としては、有形固定資産の取得で196億円、システム投資などによる無形固定資産の取得で35億円、J Brand買収に伴う支出で267億円となっております。

なお、第3四半期累計の設備投資額は288億円、内訳としては、国内ユニクロ事業で67億円、海外ユニクロ事業で131億円、グローバルブランド事業で57億円、システム投資で29億円となっております。

財務活動によるキャッシュ・フローは、222億円の支出となりました。主な内訳としては、J Brand買収などによる借入れ156億円の収入、配当金の支払額283億円の支出となっております。

以上の結果、2013年5月末における現金及び現金同等物の期末残高は3,141億円となりました。

単位：億円

		2012年8月期	2013年8月期	
		通期実績	直近予想 (7/11時点)	前期比
国内ユニクロ事業	売上高	6,200	6,730	+8.5%
	営業利益 (売上比)	1,023 16.5%	1,060 15.8%	+3.6% ▲0.7p
海外ユニクロ事業	売上高	1,531	2,340	+52.8%
	営業利益 (売上比)	109 7.2%	200 8.5%	+81.8% +1.3p
グローバルブランド事業	売上高	1,530	1,940	+26.8%
	営業利益 (売上比)	145 9.5%	185 9.5%	+27.2% +0.0p

注 連結業績には上記のほか、ファーストリテイリングの業績、のれん償却費が含まれております。

ここからは、2013年8月期の通期業績予想についてご説明いたします。

国内ユニクロ事業では、第3四半期で売上高が約30億円、営業利益も約30億円の下ブレとなっておりますが、6月の売上も好調だったこともあり、業績予想については、変更していません。

【連結】2013年8月期 通期業績予想

売上高 : 11,030億円(前年同期比+18.8%)
営業利益 : 1,475億円(前年同期比+16.6%)
経常利益 : 1,535億円(前年同期比+22.6%)
当期純利益: 915億円(前年同期比+27.7%)

単位: 億円

	2012年8月期 通期実績	2013年8月期 直近予想 (7/11時点)	
			前期比
売上高 (売上比)	9,286 100.0%	11,030 100.0%	+18.8%
売上総利益 (売上比)	4,754 51.2%	5,595 50.7%	+17.7% ▲0.5p
販管費 (売上比)	3,490 37.6%	4,120 37.4%	+18.0% ▲0.2p
営業利益 (売上比)	1,264 13.6%	1,475 13.4%	+16.6% ▲0.2p
経常利益 (売上比)	1,252 13.5%	1,535 13.9%	+22.6% +0.4p
特別損益	▲18	▲40	-
当期純利益 (売上比)	716 7.7%	915 8.3%	+27.7% +0.6p

20

連結での通期の業績予想につきましては、5月末時点で、営業外収支で大幅な為替差益が発生しておりますが、為替については固めに見積もり、直近予想より変更はございません。

この結果、通期では売上高11,030億円、営業利益1,475億円、経常利益1,535億円、当期純利益915億円を見込んでおります。

なお、配当金につきましては、既の実施した1株当たり中間配当金140円と、期末配当金140円をあわせて、年間配当金280円を予想しております。

以上で私からの説明を終わります。

ありがとうございました。

単位：億円

	2012年8月期	2013年8月期	
	通期実績	直近予想 (7/11時点)	前期比
売上高 (売上比)	6,200 100.0%	6,730 100.0%	+8.5%
売上総利益 (売上比)	2,995 48.3%	3,220 47.8%	+7.5% ▲0.5p
販管費 (売上比)	1,971 31.8%	2,160 32.1%	+9.6% +0.3p
営業利益 (売上比)	1,023 16.5%	1,060 15.8%	+3.6% ▲0.7p

2013年8月期 配当金予想

年間配当金280円を予想

	1株当たり配当金		
	中間	期末	通期
2011年8月期	95円	85円	180円
2012年8月期	130円	130円	260円
2013年8月期(予想)	140円	140円	280円

※ 業績や資金需要に大きな変動が生じた場合、期末配当金額を変更することがあります。

連結対象会社別出退店 実績・予想

【単位：店舗】	12年8月 実績 期末	2013年8月期							
		3Q累計 実績(2013/5末)				通期 予想(2013/8末)			
		出店	退店	純増減	期末	出店	退店	純増減	期末
ユニクロ事業合計	1,137	167	42	+125	1,262	214	52	+162	1,299
国内ユニクロ事業:	845	45	38	+7	852	51	43	+8	853
直営店	824	44	35	+9	833	50	40	+10	834
大型店	147	29	2	+27	174	33	2	+31	178
標準店等	677	15	33	▲18	659	17	38	▲21	656
FC	21	1	3	▲2	19	1	3	▲2	19
海外ユニクロ事業:	292	122	4	+118	410	163	9	+154	446
中国(除く香港)	145	59	2	+57	202	86	6	+80	225
香港	16	0	0	0	16	3	1	+2	18
台湾	17	19	0	+19	36	20	0	+20	37
韓国	80	24	2	+22	102	27	2	+25	105
シンガポール	7	2	0	+2	9	5	0	+5	12
マレーシア	5	5	0	+5	10	5	0	+5	10
タイ	4	5	0	+5	9	6	0	+6	10
フィリピン	1	3	0	+3	4	5	0	+5	6
インドネシア	0	0	0	0	0	1	0	+1	1
英国	10	0	0	0	10	0	0	0	10
米国	3	4	0	+4	7	4	0	+4	7
フランス	2	1	0	+1	3	1	0	+1	3
ロシア	2	0	0	0	2	0	0	0	2
ジーユー事業	176	60	21	+39	215	60	22	+38	214
セオリー事業※	373	39	10	+29	402	42	10	+32	405
コントワー・デ・コトニエ事業※	383	6	9	▲3	380	6	11	▲5	378
プリンセス タム・タム事業※	153	1	1	0	153	2	1	+1	154
総 合 計	2,222	273	83	+190	2,412	324	96	+228	2,450

※ FC店含む

適用為替レート

単位：円

	1USD	1EUR	1GBP	1RMB	100KRW
2013年8月期 第3四半期(9ヶ月平均)	86.7	113.0	136.5	13.9	7.9
2012年8月期 第3四半期(9ヶ月平均)	78.6	106.1	124.8	12.4	7.0
2013年8月期 通期予想レート(7/11時点)	82.0	107.0	130.0	13.0	7.5
2012年8月期 通期実績(12ヶ月平均)	78.6	103.9	124.3	12.4	6.9

設備投資 減価償却費 のれん償却額

単位：億円

	設備投資	減価償却費	のれん償却額
2013年8月期 第3四半期実績(9ヶ月累計)	288	165	38
2012年8月期 第3四半期実績(9ヶ月累計)	340	136	46
2013年8月期 通期予想(12ヶ月累計)	340	204	52
2012年8月期 通期実績(12ヶ月累計)	401	185	56